

本授業の主張点

年内妥結を目指し、12カ国が交渉を進めているTPP。日本の国益のために関税保護すべきか、撤廃すべきか、国内外の状況を見比べながら、重要視すべき状況を検討し合う児童の姿をめざします。

1 単元名 「TPPとわたしたちの暮らし」

2 単元の目標

TPPの問題に関わる国内外の状況を考慮して、よりよい交渉内容を考えることができる。

3 評価規準【学力デザイン レベル3より】

- TPP交渉の進展に関心をもち、交渉内容に関わる状況について意欲的に調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 国内外の状況から重要視すべき状況を判断し、TPP交渉内容についての自分の考えを適切な言葉で表現することができる。
(社会的事象の思考・判断・表現)
- TPP交渉の推移、各業界の主張や関税撤廃した場合のメリットやデメリットについて、資料からとらえ、具体的に調べることができる。
(観察・資料活用の技能)
- TPPの目的、交渉の推移、日本や交渉相手国の主張内容やその理由を理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級のほとんどの児童は社会科の学習に意欲的に取り組むことができる。中には、関連資料を図書館から借りてきたり、家庭でインターネットを使ってデータを集めたりして、学習に臨む児童もいる。既習単元「日本の米づくり」「日本の漁業」の学習では、農業や漁業の仕事に関心をもち、農家の人や漁業に携わる人々の工夫や努力、日本の農業や漁業が抱える問題について社会的価値を比較しながら考えてきた。特に食料生産に関しては、食料自給率が低いという問題に対し、ほとんどの児童が自給率を上げないと日本の食糧事情は危機的な状況に陥ると考え、その解決策を問題の背景にある複数の状況下で考えることができた。ただ、状況を見い出すことはできたものの、どの状況を問題視していけばよいのか、状況相互を比較しながら考えていく活動については難しさを感じる児童が10数名いた。資料を活用し、見出した状況ごとに関連する立場や受けている影響について調べることがまだ十分できているとはいえない。

児童は話し合い活動に意欲的に取り組むことができる。自分の考えを、根拠を明らかにして発表したり、友達の意見に対して反対意見を述べたりすることもできる。ただ、その意見が資料に準拠していなかったり、曖昧な状況認識のまま、意見を述べていることもある。また、問題に対して他人事のように考えてしまい、自分事として深く考えきれない児童や切実な問題として捉えきれない児童も数名いる。

(2) 単元の意義

本単元で取り扱うTPP（環太平洋経済連携協定）には、日本を含め米国、カナダ、チリなど12カ国が参加している。その目的は域内の貿易や投資拡大に向け、関税を含む様々な障壁をできるだけ撤廃することである。参加交渉表明が遅れた日本は7月に入り本格的な交渉に加わるようになった。10月中の基本合意と年内の交渉妥結が目標とされているが、「全品目関税完全撤廃」が原則というルールの下、国内の農業関係者を中心に関税撤廃の「例外」を求める声が多い。難しい交渉になることが予想される。国内外の様々な立場及び状況を考慮して交渉を進めていくことが必要だが、小学生であっても一人の市民として全体の利益を考えながら交渉内容を考えることは、社会科がめざす公民的資質の基礎の育成にもつながるものと考えられる。小中連携の枠組みにおいても、重視する状況を考えさせることが、レベル4の段階（複数の状況に応じたメリット・デメリットを考える）

につなげるという意味でも重要な意義をもっていると言える。

また交渉が本格的に進み始めるこの時期に合わせ、本単元を設定することで、現実の社会問題を身近に感じさせるとともに、社会科の学びが更に深まっていく良い機会にもなるだろう。特に5年生になって学んだ米、畜産、野菜、果物などの食料生産に関する産業、自動車工業を中心とする工業の内容が本単元の学びと関連付けられ、考えが深まることも期待できる。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本単元では、T P Pについて理解を深め、現実の交渉の進捗状況を見据えながら、児童なりに交渉内容を考えていくことをねらっている。その際、政府と同じように日本の国益を守る立場で考えていくのはもちろんであるが、その交渉内容が現実の状況をきちんとふまえたものになるように、国内外の状況をしっかりと見出し、比較検討しながら考えていくことを求めたい。そのために、全15時間の単元の過程において以下の点に留意しながら指導を進めていく。

まず、「であう／つかむ」過程では、T P Pの問題を切実感をもって捉えることができるように、農業関係者（J A職員）から、T P Pの概要や関税撤廃で想定される日本農業に関わる事態について説明してもらう。そして、これからの学びで獲得した知識を活用すること、交渉内容を国内外の様々な状況から導き出す必要性を感じさせるために、パフォーマンス課題を提示する。それと同時にループリックを提示し、単元の見通しをもたせ、単元のねらいをしっかりと意識させていきたい。

次に、「調べる」過程では、T P P交渉に対する日本政府の考えや日本以外の参加国の主張内容を調べさせていく。その中で、各国の利害が複雑に絡み合っている問題の全容を明らかにしていくために、政府が「聖域」と考えている重要5品目（米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖）に関わる国内及び相手国の状況を見い出していきたい。また同時に関税が完全に撤廃された場合を品目別にシミュレーションさせ、保護者と話し合わせるなど、自分達の生活と切り離さずに捉えさせ、問題に対する切実性、問題を考えさせる必要性を実感させるように留意していきたい。そして、そのために5品目中の麦は児童の食生活に身近な「小麦」を扱うようにする。

「高める」過程では、重要5品目に関する国内外の状況を明らかにしながら、現実にも即した交渉内容を考えさせるために、一番重要視しなくてはならない状況を考えさせるようにしていく。また討論を行い、交渉内容について考える場を設定する。特に重要5品目について関税撤廃するのか関税撤廃の例外を設けるのか話し合わせたい。その際、これまでの学びで重要視すると判断した状況を考慮に入れた話し合いになるように留意していく。

「ひらく」過程では、単元全体の学びを振り返らせ、パフォーマンス課題「T P P交渉で日本政府はこう主張すべきだ」の主張文作成に取り組ませる。送付先を自民党佐賀県支部と確認することで、相手意識と目的意識を明確にもたせて取り組ませ、社会とのつながりを実感させたい。作成した主張文は、友達と読み合わせ、自他の学びの深まりを実感させたり、今後の学びに対する意欲を喚起させたりするように留意したい。また、本時終了の段階で各国との交渉内容が明らかになっている場合や妥結していた場合は、主張文の内容と実際決定した内容とを比較させることで、より現実的な学びを実感させ、これからの継続的な学びのきっかけになるようにしていきたい。

4 指導計画（全15時間）（☐ 視点）

過程	時配	主な学習活動（○） 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（○）	評価
であう／つかむ	1	○ ゲストティーチャーの話	○ 意欲を高め、現実社会とのつながりを実感させるために、J Aの職員からT P Pに対する考え方を話してもらう場を設定する。	関
	2	を聞き、パフォーマンス課題の内容を知る。		
	パフォーマンス課題 T P P交渉で日本が主張すべき内容を国内外の状況から考え、自民党佐賀県支部に主張文を送りなさい。			
			○ T P Pの概要を知り、課題の内容がイメージしやすくなるように関連映像を視聴する時間を設ける。 ○ 客観的にT P Pの問題を捉えることができるように、自動車工業に関するT P P交渉の現況について伝える。	

であ う／ つ か む	3	○ パフォーマンス課題を分析し、問いをつくる。 ・日本の農家の状況にはどんな状況があるのか？ ・交渉参加をしている国はどんなことを主張しているのか？ ○ 単元の評価基準を知る。	○ 5品目を取り巻く状況を見い出す必要性を感じとらせるために、課題解決のためにどのような事を調べていけばよいのかを考えさせていく。 ○ TPPの問題を自分事として考えられるように、自分達の生活との結び付きを考える問いをつくるように声かけをする。 ○ TPPに関わる複数の状況から重要視する状況を捉えるという単元のねらいを意識させるために、ルーブリックを提示し、評価の内容を説明する。	関
調 べ る	4 5 6	○ 問いについて調べ、分かったことを伝え合う。 ○ 調べた結果をもとに随時交渉内容を考える。	○ 単元のねらいからそれないように、教師自作の資料を与え、調べ活動の時間を設定する。 ○ 交渉内容を分かりやすく考えることができるように、関税撤廃を「攻め」、関税保護を「守り」として考えを記述するように伝える。	関・知
	7 8 9	○ 重要5品目に関わる国内外の状況を見い出す。 ・働く人が高齢化している国内の状況 ・食生活が洋風化している国内の状況 ・日本人好みの米が生産されている海外の状況 ・広大な土地で大型機械導入でコストを低くしている海外の状況 ・農地が少なく、輸入に頼っている海外の状況	○ 単元のねらいからそれないように、また実際の政府の交渉重点事項に合わせられるように、関税撤廃・保護の対象を5品目に絞って考えさせる。 ○ TPPを取りまく状況を見出しやすくするために、これまでの学習を想起させたり、関連資料を見させたりしながら、立場や立場が受けている影響に関係する言葉を集めさせていく。 ○ 状況相互の関係が分かりやすくなるように、関係する言葉を状況としてまとめながら、複数の状況を「状況マップ」の中で明らかにしていく。	知・資
高 め る	10 11 (本 時) 12 13	○ 見い出した状況相互を比較し、どの状況を重要視していくべきか考える。 ・どの状況を重要視すべきだろうか？ ○ 重要視したい状況をもとに、TPP交渉内容について考える。 ・状況からすると撤廃か保護か？ ・日本は要望を押し通すべきか？	○ 状況相互の関連を捉えさせ、状況同士を比較・検討しやすいように、「状況マップ」の活用を勧める。 ○ 比較がやりやすいように、状況内の立場や立場ごとの影響を明らかにしていく。 ○ 日本と交渉相手1カ国との状況比較だけでなく、環太平洋地域全体の中で交渉内容を考えられるように、環太平洋地域全体の状況を見い出している児童の発言を取り上げるようにする。	資・思
	14	○ 討論をする。「TPP交渉で日本はどのように主張すべきか」	○ 国内外の状況を意識した話し合いになるように、13時目までに重要だと判断した状況を討論前に確認する。	資・思
ひ ら く	15	○ 主張文を書く。	○ 主張文作成に意欲的に取り組むことができるように、自民党佐賀県支部に対して手紙を書くことを確認し、相手意識と目的意識を明確にする。 ○ 単元の学びが継続していくように、日本政府の交渉内容を知らせ、違いに目を向けさせ、その理由を更に調べるように促していく。 (※この時点で交渉内容が明らかにされていたり、妥結されていたりした場合)	知・思

5 本時の指導（本時 11／15）

(1) 目標

日本国内外における複数の状況の中からどの状況を重要視すべきか比較・検討し、関税保護するのか撤廃するのか考えを述べたり、記述したりすることができる。【社会的な思考・判断・表現】

(2) 展開 (視点)

学習活動（・児童の反応予想）	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）																
1. 本時のめあてを確認する。	○ めあてを実感し、意欲を高めるため、比較する状況を確認したり、重要視する状況を考えることが、より良い交渉内容を考える時に役立つことを話したりする。 ○ 切実感をもってめあてを捉えることができるように、JA職員や家族の話を想起させる。																
小麦は「関税保護」か「関税撤廃」か。重要視する状況から考えよう。																	
2. 複数の状況のうち、どの状況を重要視するか、それぞれの立場が受ける影響の点から調べる。 (1) 個人で調べる。	○ 国内外の状況を調べ、友達との意見交流や発表にも活用しやすいように、「立場」と「立場が受ける影響」の点で記入ができるワークシートを配布しておく。 ○ 麦農家や消費者、12カ国の国民が受ける影響に目を向けやすくするために、関連資料だけでなく、前時までに作成した「状況マップ」に注目させる。 ○ 最も重要視する状況を考えさせるために、利益を得ている（得る）立場や不利益を被っている（被る）立場を調べさせたり考えさせたりする。																
<table><tr><th>状況</th><th>立場</th><th>影響</th></tr><tr><td rowspan="3">食生活の洋風化</td><td>麦農家</td><td>●安い外国産に押されてしまう</td></tr><tr><td>消費者</td><td>○パンや麺類等安く購入できる</td></tr><tr><td>米農家</td><td>●日本の米が売れなくなる。</td></tr><tr><td>世界人口の増加</td><td>12カ国の国民</td><td>●食糧が十分に確保できるか心配</td></tr><tr><td>農家の高齢化、跡継ぎ不足</td><td>麦農家</td><td>●将来的に続けられるのか不安 ●収入が途絶えてしまう</td></tr></table> (2) 「関税保護」「関税撤廃」グループに分かれ、調べた結果を交流する。 ・重要視したいのは国民の食生活が洋風化している状況で、パンや麺類が今以上に必要なことだよ。 ・重要視したいのは、世界的に人口が増加していて、食糧不足が心配されている状況だよ。 ・重要視したいのは麦農家の戸数が減少していて、将来的に収入が途絶えてしまう状況だよ。	状況	立場	影響	食生活の洋風化	麦農家	●安い外国産に押されてしまう	消費者	○パンや麺類等安く購入できる	米農家	●日本の米が売れなくなる。	世界人口の増加	12カ国の国民	●食糧が十分に確保できるか心配	農家の高齢化、跡継ぎ不足	麦農家	●将来的に続けられるのか不安 ●収入が途絶えてしまう	○ 調べた結果をもとにして、話し合いが深まるように、まずは同じグループ内で重要視する状況について話し合う場を設定する。 ◆複数の状況を、関わりのある立場が受ける影響の観点で調べ、比較することができるか。 【観察】（ワークシート、発言） A 立場と影響の観点で状況相互を比較し、自分なりの理由を記述したり、述べたりしている。 B 立場と影響の観点で状況相互を比較している。 →重要視する状況を選んだ理由を問ひかけ、記述したり話したりするように伝える。 C 立場と影響の観点でワークシートに記述することができていない。 →状況マップを見せ、立場と影響を考えるよう伝える。 ○ 比較対象になっている状況が視覚的に分かりやすいように、話し合いの途中で状況マップに注目するように声かけをする。 ○ 日本国内の状況同士、また日本と交渉相手1か国の状況比較だけでなく、環太平洋地域の状況の中で問題を考えられるように、環太平洋地域全体の状況を見い出している児童の発言を取り上げる。 ○ 12カ国の関係で交渉内容を考えられるように、国際的な分業という視点で産業の在り方を考える時間をとる。
状況	立場	影響															
食生活の洋風化	麦農家	●安い外国産に押されてしまう															
	消費者	○パンや麺類等安く購入できる															
	米農家	●日本の米が売れなくなる。															
世界人口の増加	12カ国の国民	●食糧が十分に確保できるか心配															
農家の高齢化、跡継ぎ不足	麦農家	●将来的に続けられるのか不安 ●収入が途絶えてしまう															
3. 調べた結果をもとに、重要視する状況について話し合う。 ・国民の食生活が米よりもパン食や麺類を好むようになっていっているので、安い小麦を大量に輸入していけば日本も助かると思うよ。 ・世界人口の増加を重要視すべきだと思う。食糧が十分に確保できないことが想定されるよ。 ・日本の麦農家のことを重要視すべきだと思う。現在の収入減少や跡継ぎ不足が更に深刻化していくのではないかな。	○ 本時の話し合いの内容をふり返り、状況を意識した交渉内容を考えやすくするために、文型を示す。																
4. 重要視する状況に応じて、交渉内容を考える。 ・世界人口増加という状況を重要視するならば、麦は関税撤廃すべきかな、保護すべきかな。	○ 状況に応じた考えをもてたことを称賛し、重視する状況に応じて交渉内容が変わっていったことを板書をもとに確認する。																
5. 本時のふりかえりをする。																	